

適合を決定できない理由

記載例 (質疑応答書)

表 1

建築物の名称	〇〇会社△△△△棟新築工事
構造計算適合性判定受付番号	第 ×××××× 号
建築物の番号	1

表 2

該当図書名	申請書に不備、不明確な点が認められる事項	回 答	該当図書 該当頁等	備考
構造図 S-03	① ----- 計算書の寸法と構造図が不整合です。	構造図 S-03 を差し替えます。	S-03	■補正 □追加
構造図	② -----図が添付されていません。	構造図 S-15-a を追加します。	S-15-a	□補正 ■追加
計算書 p. 254	③ -----の数値が間違っています。	計算書 p. 254 を差し替えます。再計算の結果、部材の変更はありません。	修-p. 254	■補正 □追加
計算書	④ -----の検討が見当たりません。	-----追加検討した結果、追-p. 1～追-p. 5 を追加します。この結果、B5 を追加したので、図面 S-6 を差し替えます。	追-p. 1～ 追-p. 5 S-6	□補正 ■追加 ■補正 □追加
計算書	⑤ -----の荷重は見てありますか。確認して下さい。	荷重を見直し、再出力しました。一貫計算書を差し替えます。またこの結果、大梁 G2 のサイズを変更しましたので、図面 S-10、S-12 を差し替えます。	S-10、 S-12 上部構造 一貫計算 書一式	■補正 □追加 ■補正 □追加
計算書 p. 14	⑥ -----の安全性に問題はありますか。	-----と考 えており、安全性に問題は ないと判断しております。 なお、参考資料を添付します。	付-p. 1～ 12	□補正 □追加 □補正 ■追加
その他 (申請書)	⑦ 申請書第三面の「5. 構造計算の区分」が間違っています。	修正し、差し替えます。	申請書第 三面	■補正 □追加

※回答欄は増えても構いませんので、可能な限り丁寧にご記載下さい。

※「該当頁」は、「追-p.1～追-p.5」のように、必ず最終頁までご記載下さい。

変更箇所説明計算書記載例 (計算書の補正の場合)

質疑⑨回答

※必ず、質疑番号を記載して下さい。

(2)

6_B25
スパン長: 2.10m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.3kN/m

P1		P1	
0.80	6.3	10.0	10.0
床荷重【4】			
		0.05	2.00

応力 M = 3.4, Q = 15.6, N = 0.0
 部材 H-250x125x6.0x9.0 (SS400), 端部ボルト 3-M16 (H.T.B. F10T 一面)
 A = 37.0, I = 3960.0, Z = 317.0

許容応力度 $f_t = 156, f_b = 156$
 曲げ検定比 $\sigma_b/f_b = 0.07$, 端部ボルトの検定比 0.17
 変位量 $\delta = 0.2\text{mm} = 1/9999$

※階段重量より
 $P1 = 3.9\text{kN/m}^2$
 $*2.05\text{m} * 4.97\text{m} * 1/4$
 $= 9.94\text{kN} \rightarrow 10.0\text{kN}$

7_SB40 L=6.56
スパン長: 6.56m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.6kN/m

P1		P1		P2		P3	
46.046.0		16.0		6.0			
2.192.19		1.30		4.86			

応力 M = 115.6, Q = 61.2, N = 0.0
 部材 H-400x200x8.0x13.0 (SS400), 端部ボルト 5-M20 (H.T.B. F10T 一面)
 A = 83.4, I = 23500.0, Z = 1170.0

許容応力度 $f_t = 156, f_b = 156$
 曲げ検定比 $\sigma_b/f_b = 0.63$, 端部ボルトの検定比 0.26
 変位量 $\delta = 11.1\text{mm} = 1/590$

※小梁の設計
 No.4のせん断力より
 $P1 = 45.6\text{kN} \rightarrow 46.0\text{kN}$

※小梁の設計
 No.6のせん断力より
 $P2 = 15.8\text{kN} \rightarrow 16.0\text{kN}$

※小梁の設計
 No.5のせん断力より
 $P3 = 5.5\text{kN} \rightarrow 6.0\text{kN}$

8_B45 (2F事務所) L=8.52m t80増打
スパン長: 8.52m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.7kN/m

(両側)		(両側)	
床荷重【4】		W1	
1.10	6.3	1.10	2.5

応力 M = 182.3, Q = 85.6, N = 0.0
 部材 H-450x200x9.0x14.0 (SS400), 端部ボルト 5-M20 (H.T.B. F10T 一面)
 A = 95.4, I = 32900.0, Z = 1460.0

許容応力度 $f_t = 156, f_b = 156$
 曲げ検定比 $\sigma_b/f_b = 0.80$, 端部ボルトの検定比 0.36
 変位量 $\delta = 20.4\text{mm} = 1/416$

※床荷重【4】
 電算はS3入力ですが、
 小梁は安全側としS4で検討する。

※t80増打荷重より
 $W1 = 24\text{kN/m}^3$
 $*0.08\text{m} * 2.6\text{m} * 1/2$
 $= 2.5\text{kN/m}$

※検討追加し、部材追加しました。

9_B39 (2F事務所) L=6.93m t80増打
スパン長: 6.93m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.5kN/m

(両側)		(両側)	
床荷重【4】		W1	
1.10	6.3	1.10	2.5

応力 M = 103.0, Q = 59.5, N = 0.0
 部材 H-396x199x7.0x11.0 (SS400), 端部ボルト 5-M20 (H.T.B. F10T 一面)
 A = 70.7, I = 19800.0, Z = 990.0

許容応力度 $f_t = 156, f_b = 156$
 曲げ検定比 $\sigma_b/f_b = 0.66$, 端部ボルトの検定比 0.25
 変位量 $\delta = 12.7\text{mm} = 1/545$

※t80増打荷重より
 $W1 = 24\text{kN/m}^3$
 $*0.08\text{m} * 2.6\text{m} * 1/2$
 $= 2.5\text{kN/m}$

9'_B34 (2F事務所) L=6.93m t80増打
スパン長: 6.93m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.4kN/m

(両側)		(両側)	
床荷重【4】		W1	
1.10	6.3	2.5	
		1.50	

応力 M = 85.6, Q = 49.4, N = 0.0
 部材 H-346x174x6.0x9.0 (SS400), 端部ボルト 5-M20 (H.T.B. F10T 一面)
 A = 51.7, I = 11000.0, Z = 638.0

許容応力度 $f_t = 156, f_b = 156$
 曲げ検定比 $\sigma_b/f_b = 0.86$, 端部ボルトの検定比 0.21
 変位量 $\delta = 19.0\text{mm} = 1/364$

※t80増打荷重より
 $W1 = 24\text{kN/m}^3$
 $*0.08\text{m} * 2.6\text{m} * 1/2$
 $= 2.5\text{kN/m}$

※構造計算書の補正(差替え)の場合は、差し替え前のページ番号は残し、その横に修正ページ番号を記載して下さい。

